

J-クレジット制度管理者御中

実績確認概要書

平成 29 年 2 月 27 日

審査機関名 ビューローベリタスジャパン株式会社

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	温泉排熱回収ヒートポンプ冷暖房・給湯システムによる省エネルギー事業
プロジェクト番号	KC0150
排出削減事業者名	北竜町
排出削減共同実施事業者名	公益財団法人 北海道環境財団
事業実施場所	サンフラワーパーク北竜温泉 (北海道雨竜郡北竜町板谷 163-2)
事業の概要	灯油ボイラーと吸収式冷温水機で行っていた給湯・暖冷房・浴槽昇温を温泉排水熱源ヒートポンプシステムで行い、さらに温泉排水の熱回収により給湯補給水の昇温を行ことで、灯油使用量及び CO2 発生量を削減する。
排出削減量の計画	2009 年度 251tCO2/年 2010~2012 年度 679tCO2/年 2013 年度 507tCO2/年 2014~2017 年度 520tCO2/年 2018 年度 389tCO2/年 (事業実施期間合計 5,264tCO2)
クレジット 認証期間	開始日 2010 年 1 月 1 日 終了予定日 2018 年 12 月 31 日
排出削減方法論	ホテル棟： 002-A 「ヒートポンプの導入による熱源機器の更新（熱回収型ヒートポンプ）」 保養センター棟：

	002-A 「ヒートポンプの導入による熱源機器の更新（熱回収型ヒートポンプ）」 009 「温泉熱及び温泉排熱のエネルギー利用」
--	--

2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日 ～ 2015年12月31日（第5回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	1,044 tCO ₂ （2013年4月1日～2016年3月31日）
--------------	---

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていること	<p>排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていることを確認した。</p> <p>1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 第5回実績確認のため対象外</p> <p>2) 対象期間中の設備稼働 事業者へのインタビュー及び根拠資料の確認により、本実績報告期間において導入設備である排湯熱源ヒートポンプ・熱交換器が稼働していることを実績報告期間中の運転記録より確認した。</p>
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていることを確認した。</p> <p>1) モニタリング方法の確認 事業者へのインタビュー及び関連資料の確認結果、承認排出削減方法論、及び、承認排出削減事業計画に従い、ヒートポンプの運転記録及び温水の流量などの必要な記録のモニタリ</p>

	<p>ングが実施されていることを確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性 各モニタリング箇所のデータは 5 分毎に測定され、自動的に CSV データとして専用の PC に 1 日ごと記録保管されている。また、流量も手順通り毎日記録されていることを確認した。これより、エネルギー使用量等が実績報告期間中にわたり適切に把握され、正確に集計、適切に保存されていることを確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数 承認排出削減事業計画通りのモニタリング対象指標がリストアップされ、使用されている単位発熱量と排出係数が J-クレジット制度・モニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver2.6 によるデータであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を測定結果と突合し、方法論の定めた計算式との照合を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
算定期間が移行期間内であること	本実績確認の対象期間は、2013 年 4 月 1 日から 2015 年 12 月 31 日までであり、排出削減量を算定した期間が終了予定である 2018 年 12 月 31 日を超えないことを確認している。

5. 承認排出削減事業からの重要な変更点についての評価（該当する場合）

該当なし

6. 特記事項

確認した排出削減量に相当する省エネルギー量について、ホテル棟については原油換算 53.0kL、保養センター棟については 239.8kL、合計で 292.8kL であることを確認した。また、確認した排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算 1,142.7GJ であることを確認した。

なお、ホテル棟における前回実績確認からの変動は、データロガーの不具合等によるデータ欠損期間の存在と、電力の排出係数が増加していることが主要因であることを確認している。